事例NO.119

ヒポクラテスの木の由来について

・質問

本学構内にある「ヒポクラテスの木」は本当にコス島由来のプラタナスか？

［東京医科大学医学部医学科同窓会，電話受付，2017年8月］

・調査の経緯

東京医科大学（以下，本学）新宿キャンパス構内に植樹されているプラタナスは，ギリシャのコス島にあるヒポクラテス由来のプラタナスの巨樹から分けられたものと伝えられ，「ヒポクラテスの木」と呼ばれている。本学同窓会が2019年に開設100周年を迎えるにあたり，記念にそのヒポクラテスの木から苗木をつくって本学の同窓会員に配布しようという企画が持ち上がり，この「ヒポクラテスの木」がコス島に由来するものであるかの真偽について来歴調査の依頼があった。

まず，参考となる学内刊行物資料として『東京医科大学報』[1)2)]があり，植樹の経緯について簡単な記録があった。本学の「ヒポクラテスの木」は日本赤十字社より寄贈されたとあり，インターネット検索をおこなったところ，日本赤十字社創立100周年記念に全国の学校，病院にヒポクラテスの木の苗木を配布したという情報を確認することができた。日本赤十字社へこの事実確認をしたところ，残念ながら本学へ配布された記録は残されていなかった。次に，当館所蔵のヒポクラテス関連資料を調査し，『誰も知らないヒポクラテス』に本学名が記されていたことを確認した[3)4)]。

同書によるとヒポクラテスの木の株は，篠田株，蒲原株，コス島直送緒方株，コス島直送日赤株，日赤株，ギリシャ協会株，その他の株と分類されていた。篠田株は篠田総合病院（山形市）の篠田秀男，蒲原株は新潟市の蒲原宏，緒方株は東京大学の緒方富雄など，多くの研究者，植樹者の手によって，全国にヒポクラテスの木が広まった。このうち“コス島直送日赤株”の寄贈先に本学名があることから，本学の「ヒポクラテスの木」がコス島由来のものである可能性が高くなったが，著者がどのような資料を元にこの株の一覧を書いたかは不明であった[4)]。

国内のヒポクラテスの木の株に関する研究論文はいくつかあったが，厳密に日本赤十字社からの株が，本学に贈られた木であるとする文献的な証拠や，贈られてから一度も枯れずに今日まで生育した株であるかの証拠などは発見できなかった。

写真1．現在のヒポクラテスの木（2018年）

また，本学の同窓生によると，“一度枯死し，再度新潟から贈られた株が現在のもの”だとする説があり，その可能性も残したままである。

・回答

調査依頼者へは，調査経緯を報告し，日本赤十字社創立100周年記念として本学に苗木が届いたことはまちがいなさそうだが，現存する木が，その寄贈樹であるかの断定はできないため，DNA鑑定をお勧めするとした。同窓会はコス島の老木より試料を取寄せ，比較検討のために全国からもいくつか試料を集めて他機関へ依頼し，DNA鑑定作業を進めている。

・情報源

1）ヒポクラテスの樹寄贈される．東京医科大学報．1978; 123:9.

2）ヒポクラテスの樹．東京医科大学報．1979;143:11.
3）加我君孝．ヒポクラテスの木が植えられている大学等一覧．誰も知らないヒポクラテス．東京:医学と看護社;2017.p.40.
4）加我君孝．わが国に生育するヒポクラテスの木．誰も知らないヒポクラテス．東京:医学と看護社;2017.p.41.
5）星栄一．ヒポクラテスの木と蒲原株．新潟県厚生連医誌．2007;16(1):163-9.

・補足

東京大学の緒方富雄は1971年に「ヒポクラテスの木友の会」を創設した[5)]。現在，集約的に研究されている同好会などは見つからなかったが愛好家は多いと思われる。

本件は我が国の医学史，医療史に係わる事項であるとともに，植物学，農学の面からも，本邦のプラタナスの分布と外来樹種としての導入履歴を知る上で重要と思われる。大学や病院の樹木の記録は散逸しがちであると考えられるが，植栽記録と情報公開が重要である。

（東京医科大学図書館分館　石谷　　真
ishigaya@tokyo-med.ac.jp）